

丈夫ますらをの妻つまとかもへと身みにしみて

さびしと思おもふ夜半よはもわりけり

折やひにふれて外ほか一首しほ

和歌子

あかねさす日ひの本もとをのこほことりて

しこくさの露つゆはらふをしど

櫻田さくらだのあたりにて

さなみに幾いくすち長ながくあとを見みせて

のとけく遊あそぶ鴨かもの一ひとむれ

出征しゆつせいの前夜ぜんや 外三首

ひむかし

出征しゆつせいの前夜ぜんや

孤燈ことうの影かげにさやをはらうて丈夫ますらなが

はゝえむ姿すがたものすぢさかな

夫おつとの門出かたじを人ひとに知らせんとして

わられ飛とぶ西伯利亚しへりあの原はらに我夫わがつまは

今日けふいさましく門出かたじでましぬ

戦死せんし者の妻つまに代りて

國くにのためさげし露つゆの命いのちぞと

思おもひつゝ尙なほぬるゝ袖そではも

從軍じゆうぐん者に代りて

西伯利亚しへりあの千里せんりの原はらを我わが行ゆけば

吹雪ふゆき顔を打うつて軍馬ぐんば嘶なく

梅うめと雪ゆき

すみれ

みるとしもなき中空なかぞらの

月つきは鏡かみのくもりなく